

13年が経過した

「東日本大震災の今」

中学生被災地派遣事業

つなぐ目・耳・心で共創し、未来に向けて考動しよう

市内5中学校の代表10人が、中学生被災地派遣研修に参加しました。
7月29日(月)から8月1日(木)まで、岩手県、宮城県、福島県を訪問しました。



▲震災遺構 浪江町立請戸小学校（1日目）

1日目

東日本大震災・原子力災害伝承館訪問、震災遺構浪江町立請戸小学校視察、資源エネルギー庁職員の講話
原子力災害伝承館では、原発事故

の対応や避難指示が解除された地域の現状を聞きました。

震災遺構浪江町立請戸小学校では、津波の恐ろしさに加え、原発事故で故郷に帰れなくなった人々の気持ちに思いを馳せました。

2日目

南三陸震災復興祈念公園・写真館視察、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館訪問、いのちをつなぐ未来館訪問、宝来館女将の講話

南三陸震災復興祈念公園では、職員が津波襲来直前まで避難を呼びかけ続けた防災対策庁舎跡地を訪れ、追悼の祈りをささげました。

気仙沼市の伝承館では建物の3階にまで車が流された様子を見学



▲気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館（2日目）